

1	会議名	第4回習志野市新庁舎等基本設計検討委員会
2	開催日時	日時：平成26年3月20日（木） 午前9:30～
3	開催場所	消防庁舎4階会議室
4	出席者	委員 廣田委員長、鈴木副委員長、倉斗委員、伊藤委員、杉林委員、田久保委員 事務局 吉川本部長、井手副本部長、江口主幹、笹森技師、鈴木主事 設計者 株式会社 佐藤総合計画 渡辺副室長、河田上席主任、川波主任 龍神氏
5	議題及び会議の概要	
<p><b>本会議の公開</b></p> <p><b>1. 開会</b></p> <p><b>2. 報告事項</b></p> <p>(1)・(2)を併せて報告し、その後質疑に移った。</p> <p><b>(1) 事業費増による事業計画の見直し</b></p> <p><b>資料説明</b></p> <p>資料「新庁舎等建設に関する概算事業費について」に基づいて事業費の増加要因の内訳説明と工期延長や工事区分の見直しについて説明を行った。</p> <p><b>(2) パブリックコメントでの意見について</b></p> <p><b>資料説明</b></p> <p>パブリックコメントの主な意見の説明をした。事業費の抑制に対する要望を多く頂いたことと、パブリックコメントでもらった意見については、対応できるか検討していく方針であることを報告した。</p> <p><b>《質疑・意見等》 ※→は設計者または事務局の回答箇所</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物価上昇による予算増加に関する点は全国的なものであり、市民も仕方ないと納得されると思うが、庁舎の機能強化の方が増加金額が大きい。市民から見れば、どさくさに紛れて市の職員が使う庁舎の機能を優先させているように見えてしまうのではないかと。</li> <li>また、公共施設再生マネジメントの流れの中で、公共施設を取捨選択し縮小していく方針を掲げているにもかかわらず、庁舎整備では面積増となるのでは、公共施設マネジメントを進めていくに当たり、齟齬が生じているのではないかと。事務局としての考え方を聞きたい。</li> <li>→新庁舎建設については、基本構想の段階から具体的に検討していく中で面積プランは18,000㎡を超えるものになっていた。それを必要最低限のものにそぎ落としていく中で18,000㎡になった経緯がある。</li> <li>・面積の増減がどのような変遷で変化していったかを理解したいので、プロポーザル時に提案した面積を教えてください。</li> <li>→17,600㎡で提示した。その後、基本設計を進めていく経緯で先に広めにプランを作ったうえで、削減すべき要素を積み上げていった結果、現在の面積となった。</li> </ul>		

・住民に向けた面積の変化の説明はいつ頃から行っているのか。

→1月下旬から説明をしており、パブリックコメントに向けて開催した2月の市民説明会でも18,000㎡の面積で説明している。

・説明の仕方として、面積増と事業費増は別に扱うべきものである。

人口増や行政需要の増加により庁舎の面積を基本構想時点から増やしたほうが良いという説明はこの検討委員会でもされたと思います。ただ、いつの時点で多目的ホールが外れたのか確認したい。面積増の経緯をはっきりしてほしい。

→まず、プロポーザル時に設計者が提案したプランでは、検診車を横付けして利用する形態を想定した上で17,600㎡の範囲で提案をしていたが、設計者選定後に利用方法を確認すると、定常的なスペースで対応することが求められた。これは見込み違いであった。その後、市民ホールを別棟にすることとなり、市庁舎の面積からは除くこととなった。

・当初プロポーザルの与条件では、17,600㎡の中に検診機能などの諸室を含めた面積としていたはずである。検診スペースの運営上の利便性と軽スポーツの会場を想定した多目的ホールを将来計画としたのに、その面積を含んでいないのに新庁舎が400㎡増床していることの理屈が分からない。

→プロポーザルでの提案の前提としては、基本構想の面積を超過することは無い様にしたが、他市の庁舎と比べても面積は手狭であることから、執務スペースとして適切なものに改善することが必要と考え、庁舎全体で1割程度庁舎面積を増床して設計の検討を進めた。その後、事業費の高騰が進む中で増床して検討していた庁舎面積を削減していった。12月に各課ヒアリング結果を踏まえ、執務スペースの面積削減を検討したが、旧庁舎よりも面積が増床することとなった。

・市民に納得してもらうためには、例えば、将来的に市民サービスを維持するために、これだけの職員増の必要があるから面積増加したというように、市民の立場に立った説明が必要ではないか。面積増に係る明確な根拠をしっかりと作らなければならない。他市と比べて一人当たり面積が少ないことは増加要因にはならない。

・面積の数字の表記には留意した方がよい。17,900㎡と18,000㎡では印象が異なる。

・多目的ホールがあることによって、市民として事業を進めることを認めた経緯があることから、そのあたりの見通しや経緯はきちんと説明すべき。

そもそも追加項目の内容は、一般的に入れられるものだと感じる。このように列挙することはやめるべき。

市民視点でいえば、多目的ホールや駐車場を延期することは問題であり、市民が利用する施設や設備を先延ばしして市庁舎のみ機能強化するというのは納得はできない。

・我々委員が状況を理解できるように、かつ適切に説明ができると判断できる説明資料を作成していただきたい。消費税増税分、建設単価UP、機能拡充の内容のそれぞれを検証するための根拠を付けていただきたい。

・面積増が問題となっている中で、コンビニを誘致する必要があるのか。再検討し必要でなければ面積削減につながるのではないか。

→現在、一部のコンビニでは住民票が取れるサービスが提供されているものがあるので、導入等については検討していきたいが、事業者が参入するかどうかはわからない状況であり、そのことも踏まえて検討を進めていきたい。

- ・次回までの回答を迫るものではないが、市職員が今までの執務のやり方を見直すことも含めて、市庁舎の整備を進めていく中で市の姿勢を見せる必要があるのではないかと。

### 3. 議事

#### (1) 新庁舎等基本設計（案）について

- ・エントランスホールのLCCはどのように想定されるか。また、5階の議会フロアは議会閉会中はどのように活用する予定か。

→エントランスホールのイニシャルに係る天井材は天然目で検討していますが、コスト削減の観点とメンテナンス性等を含めて検討しています。階高等の空間スペースも検討中なので具体的なLCCの検討は実施設計後になると考えます。

5階の議会フロアは、基本設計の検討過程で行った各会派からの要望では、フラットな議場ではなく、なだらかな傾斜がつくような固定型の議場とするという意見が多数を占めていた。一部の机は固定となるが、一部の机を取り外し可能とし平場を設けることで多目的利用ができるように設計者と検討をしています。多目的利用については、この形式の固定式議場とした上で市民利用の方法を検討していきたい。

- ・議場について市民が閉会中の開放を求めていることを議員には伝えているのか。

→基本構想の経緯を含めて説明をしているので、市議会は承知しているという認識である。

- ・多数の会派の意見ということだが、たまたま現時点で議員になっている人たちの要望と市民利用のどちらを優先させることが適切なのかという議論があるが、その点については、議員からの要望で固定式議場となったことを市民にも説明するべきではないか。

→議員は市民の代表であり、その集まりである会派の多くから要望があったため固定式議場としています。ただ、構造体から傾斜を設けることにはしていないため、庁舎完成後しばらく経過した後でも、工事をしてフラットな議場に変更することが可能である。

- ・議員専用の議場では困る。市民が議場に足が運びやすい状況を作ることによって市民に市政への関心を持って貰う様にするべきである

- ・バリアフリーへの対応も含めて対応をお願いしたい。

- ・市民の代表であるこの委員会としては、議場をフラットにして、多目的にするようにすべきという意向を市民が有していることをしっかり記録してもらいたい。

- ・音楽の街というイメージは分かるがハミング広場の鍵盤については、使い勝手や安全性の視点からはフラットにするほうがよいのではないかと。

→今後の実施設計において詳細に検討することになるが、事務局として留意したい。

- ・立体駐車場を除いたプランを見せるということは、立体駐車場はやめることが可能性としてゼロで

はないということか。

→予算の都合上、平準化を図るという意図で先送りをしているところではあるが、可能性としては考えられる

・立体駐車場の整備は必須である。市民まつりを行うスペースを確保できないことは市民も懸念がある。旧庁舎をどのように活用するかについて検討をお願いしたい。

→事務局としても必要性は理解している。要望として承る。

・旧庁舎の売却は致し方ないように思えるが、きらっと広場を代替できる機能を新庁舎に求める要望があることから、その点には検討をいただきたい。

→要望として承る。

・断熱サッシはコスト的に高いと思う。費用対効果を考えると寒冷地では無い首都圏で一般的に導入されているものなのか。

→マンションでも結露しにくいサッシとして採用しているので、一般的だと思われる。サッシのグレードは要求水準書を整理していく段階で再度検討していく。

・ガラス面が多い中で断熱ガラスを採用することが適正かどうか。予算を削減するために検討する事項として挙げられているエスカレーターを除くことと比較して考えないといけない。

設計者は、プロポーザルの段階で決められた事業費の範囲で検討することを徹底してもらう必要がある。委員会の立場としては細かく検討していただきたい。

・100何十億もかけているのにいったいどの程度の設備なのか、一般的にグレードは高いのか。

→決してグレードは高くはない。平均または平均以下かと思うが、耐震性能は免震構造としており、優れている。

## (2) 今後の検討項目について

・面積の経緯については、3月中に説明をしてもらう機会を設けること。

・コストアップ要因について理解しやすい資料を適切に作成してほしい。

## 4. その他

予算が予算委で可決した。そこでは附帯事項として、債務負担行為の額は上限ではあるが、きちんと抑制を行うこと、市民への説明をしっかりと適切に実施することが申し伝えられた。事務局としては、重要な事項であるとして受け止め、作業を進めていきたいと考えている。

さらに、本委員会でも重要な指摘がなされた。具体的な日程は別途調整させていただくが、ご指摘事項について次回委員会にてご説明させていただく機会を設けたい。

## 5. 閉会